

やまもり通信 vol.82

2月3日は節分。
恵方巻を食べたり、豆まきをしたりして
1年の無病息災を願いましょ！



【加子母の風景】節分の夕方、各家の戸に貼られた「鬼札」を集める「鬼めぐり」という風習が今でもあります。

こちら 彩都やまもりです

【住所】箕面市彩都栗生南1-17-26

【彩都やまもり 2月3月 彩輝館ギャラリー展示情報】

「ほっこり冬の岐阜を楽しむ」を開催中です。

【期間】1月18日(水)～2月20日(月)

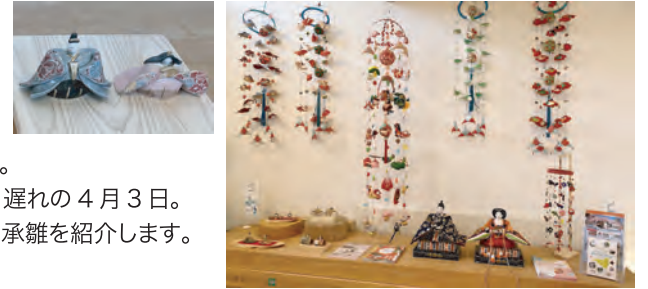
冬本番。お風呂や温泉を楽しんだり、地酒や料理でほっこりしたり・・・
岐阜の冬の楽しみ方の一例を紹介・岐阜ならではの冬のものの一部販売
しています。ぜひあなたにぴったりの冬の楽しみ方を見つけに来てください。



「春を感じる岐阜の変わり雛(仮称)展」を開催します。

【期間】2月22日(水)～4月3日(水)

雛飾りを見ると春の訪れを感じ、何となく気分も華やかになるもの。
関西では3月3日がひな祭りですが、岐阜県東濃地方のひな祭りは1か月遅れの4月3日。
ということで上記の期間、つるし雛や陶器雛など岐阜に伝わる変わり雛や伝承雛を紹介します。



【2月イベント情報】

今年最初の『やまもり市』を開催します。

岐阜名物の朴葉寿司や大福など、スタッフ一押し、岐阜の特産品を数量限定で販売します。日曜日は大工さんによる「かな削り体験会」も開催予定です。

【日時】2月4日(土)5日(日)

9時半～15時頃

※売り切れ次第終了

【場所】彩都やまもり敷地内



冬の食卓彩る美濃焼と薪ストーブのある暮らし
体験会実施中です。

土岐市のご協力で、彩都やまもりにある2棟のモデルハウスの食卓を冬の食器で彩っていただきました。ご興味ある方はぜひこの機会にお越しください。また、事前にご来場予約いただくと「yakata」内にて薪ストーブのある暮らしも体験できます。

【薪ストーブ体験会実施期間】

1月14日(土)～2月27日(月)《予定》



彩都やまもりの
これぞない?

大工さんの木のおもちゃ

今回ご紹介するのは、とってもかわいい木のおもちゃ。
加子母の大工さんがお孫さんのために手作りして生まれたおもちゃだとか。動物のかたちをしていてコロコロ動かしたり、手に持って振るとかわいい鈴の音が鳴ります。胴体の部分はひのき、耳や車の部分はケヤキで作られていて塗装にはミツロウが使用されているため赤ちゃんが口に入れても安心、安全です。
お子様やお孫さんへプレゼント、お友達へのちょっとした出産祝いにも喜ばれそうですね。
気になる方はぜひ一度彩都やまもりへお越しください。



【お問合せ】彩都やまもり(TEL:072-739-6046)

※最新情報は随時、
彩都やまもり HP
(<https://yamamori.site>) や
facebook でご確認ください。



やまもりHP



やまもりfacebook

彩都やまもり
ひとこと日記

門松づくり大人気

昨年末の12/18(日)、彩都やまもりでは恒例の『年の瀬感謝祭』を開催しました。感謝祭のメインとなる「門松づくり」は毎回大人気。コロナが流行りだした2年前からは1回の人数を大幅に制限し回数を増やして行っていますが、それでも予約開始直後にほぼ満席になるほどです。

この日の朝の気温は2度と凍えるような寒さ。それでもかじかむ手で一生懸命竹に縄を巻き、松や南天の飾り付けをし、出来上がった門松を見て思わずにっこり。ほとんどの人が例年より少し大きめの門松を作って持ち帰られました。

門松作りの他にも、スタッフ一押しの岐阜の特産品販売や木工品販売はもちろん「焚火コーナー」も設け、ビンゴ大会も開催しました。岐阜名物の朴葉寿司や中津川の栗きんとんを買い求める人、熱々の鮎の塩焼きや五平餅をほおぼりながら焚火コーナーで暖を取る人などいろんな人に岐阜を感じていただきながら、ゆったりと楽しいひと時を過ごしていただくことができました。



加子母の人 山守日記15 第73回 江戸時代のご飯事情



江戸時代、山深い加子母に住む人達はどんな食事をしていたのでしょうか。御山守内木彦七の『御山方御用井所持日記』には、食べ物のこともたくさん記されています。今回はその中から、普段の食事を中心に紹介します。

●ご飯のはなし

彦七家の普段の食事は、1日3食。今と同じですね。メニューは、米飯・吸物・主菜・漬物程度でした。しかし日記には、ドジョウ・山芋・鴨・大根など特別な具材を使った汁物が登場することもありました。鴨汁は特に好評だった様で日記にも「皆々賞断申也（みなみなしょうがんもうすなり：みんな美味いと言ってほめていた）」と書かれています。どんな味だったんでしょう。美味しそうですね。また漬物については、大根や蕪などを浅漬けにしたり、酒粕を使って粕漬けにしたり自分達で作って食べていたそうです。冬になると野菜が採れなくなるのでたくさん漬物を漬けておいたことでしょうか。そこらへんは今も同じで、加子母のお母さん達が集まると自慢のお漬物が振る舞われ、話に花が咲きます。

●お粥のはなし

夜なべ仕事の時は、米飯を使って小豆



粥などの夜食を食べました。彦七が体調が悪い時は消化の良い白粥を作ってもらって食べていたようです。

明和5年（一七六八）8月9日の日記にはこんなことがありました。彦七が三浦山登山中に体調を悪くして一日中寝込んでいたところ、小郷の儀兵衛が訪れて飯を炊く準備を始めました。彦七は昨日手にいれた玉子を味噌汁にして煮させますが、いざ食べてみると熱のせい「味など少しも無之」。そこで翌朝は白粥を煮させ食べると「寸度味有之（少しだけ味がする）」。その日も体調が全快するとはなかったため、白粥と魚を食べ、夜に薬も服用。11日には「寸度快く」なりました。

貴重な玉子が味が少しもなかったのは残念ですが、治ってよかったですね、彦七さん。

参考文献：『四季折々の暮らしと文化 江戸時代』がしも生活 ② 仲泉剛・菅場真仁著 徳川林政史研究所発行

ひとつの火

1月、新美南吉さんのお話を絵本にする
「第3回安城市新美南吉絵本大賞」で
大賞を頂きました。うれしいなあ。

私は「ひとつの火」というお話を描きました。

山のふもとの 小さな村の ちようちん屋の少年が、
ある晩 お客の牛飼いに頼まれて
マッチの火をちようちんのろうそくに
うつしてやります。生まれて初めてすった
マッチの火。

あの火は、人から人へうつされてどこまで
いくだろう？少年の想像が広がります。

ほんのナニいな出来事、人の縁が、時空を
超えて広がっていく、そんなことを思わせる物語です。



本間希代子 絵描きイラストレーター 名古屋生まれ。加子母に移住して25年目。古楽器奏者の夫と娘と日々バタバタと加子母ライフを楽しんでいます。アトリエ玉手箱 <http://tebakojip>

ふるさと 岐阜からあふく



音をつむぐ宿 縁音
石井 克哉さん

他府県から移住し岐阜に暮らす「人」に焦点をあわせた企画、今回は大垣市で音を紡ぐ宿「縁音」のオーナー石井克哉さんにお話しをお伺いしました。（やまもり通信編集室・以下「や」）

や）まず最初にここ大垣市で宿泊施設を運営されたいきさつについてお聞かせください。

石井）私は長い間兵庫県西宮市の高校で教員をしていて、その頃から妻といつか田舎暮らしをしたいねと話していました。まだその時は何をしたいとかの思いはないうえ、仕事の合間に二人で関東から関西の各県を十数年の間見て回りましたが、ある時ホールにピアノが置いてある保養所に出会いました。もともと二人とも楽器演奏の趣味がありましたから音楽をメインにした民宿がいいんじゃないかと思い、それからはピアノなどの楽器演奏が気兼ねなくできる場所を探してついに岐阜県大垣市で見つけることができました。

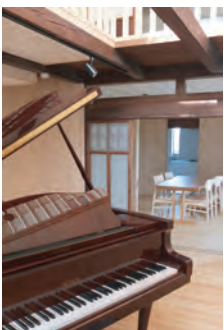
や）それからどう？

石井）昨年の1月に古民家改修の打ち合わせをはじめて春から工事が始まり、夏に完成する予定でしたが少し遅れて8月末のオープンとなりました。ここには宿泊用に二部屋ありますが、気兼ねすることなくピアノや楽器演奏

奏を楽しんでいただきたかったので一日一組様限定としています。チエコのペトロフ社製のグランドピアノが置かれていることなどがSNSで広まり、最近では東京など遠方から来てくださる方も増えてきました。

や）それは楽しみです。ほかに「縁音」の魅力はどうぞ？

石井）はい。縁音は旧中山道赤坂宿の背後にある金生山（かなぶさん）中腹にありますので見晴らしが素晴らしく、鳥の鳴き声が聞こえるような静かで緑豊かな環境の中にあります。徒歩圏内には旧中山道赤坂宿の風情ある街並みや「日本の古生物学発祥の地」として知られた金生山で産出した多くの化石を展示した金生山化石館などがありますので、音楽愛好家の方だけでなく観光目的でもぜひご利用ください。



音をつむぐ宿 縁音
TEL 0584-47-9275
受付時間 10:00~21:00
〒503-2213 岐阜県大垣市赤坂町4527-42



※まめⅡ東濃地方の方言「元氣」という意味

関西発会活動けいじ板

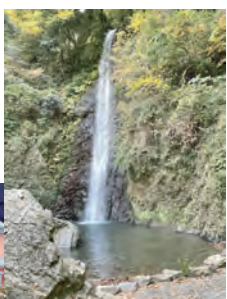
●ふるさと紀行

大阪県人会120周年と関西県人連合会10周年記念の感謝・参拝の旅「ふるさと紀行」を2年ぶりに、昨年11月15日（火）16日（水）、1泊2日の日程で行いました。参加者は16人で行先は紅葉が見頃の西濃地区です。

大阪梅田を8時45分出発して京都経由で最初の目的地、日本百名山の二つの伊吹山へ。ドライブウェイを登りきったスカイテラス（標高1260メートル）からの景色は正に時間がゆっくり流れる天空の別世界でした。最初の参拝は谷汲山華厳寺で、「西国三十三所巡礼」の最後の霊場で、満願寺として有名。今回のふるさと紀行の感謝・参拝の旅の最大の目的地です。



地元のボランティアガイドの説明を聞きながら紅葉のトンネルを抜けて本堂へ。県人会、連合会の「設立記念式典がお陰様で無事挙行出来た」報告と、「更なる発展を」お願ひし、「現在（本堂）、過去（満願堂）、未来（爰摺堂）」を意味する三つのお堂の御



今回のふるさと紀行は参拝が中心の強行軍でしたが、皆さんのご協力のお陰で無事所期の目的を達成して帰路へ。京都経由で19時30分JR大阪駅へ帰ってきました。

朱印を購入しました。宿泊は長良川温泉ホテルパークで地元の食材と温泉を満喫。時節柄カラオケが出来なかったのは少し残念。二日目の養老の滝公園では地元のボランティアガイドとともに日本の滝百選の、養老の滝、を指して約1.5キロの坂道を、息を切らしながら登りました。辿り着いた高さ30メートル、幅4メートルの滝の姿は周りの自然と一体となった神秘的な美しさでした。その後屋敷を兼ねて商売繁盛の神社、千代保稲荷へ。平日なのに参拝者が多いのにビックリ。これも全国旅行支援の影響か。企業訪問は究極のやわらかさと汲水力で魔法のタオルとして話題の「浅野撚糸（株）」見学者も多く休憩所、喫茶店、アウトレット商品なども販売されている地元の観光地のような賑やかさでした。そして最後の参拝の金物の神社、南宮大社へ。他ではあまり見られない金属を取り付けた給馬が多く奉納されているのに驚きました。